

技術士2次試験に合格して



飯野 潔
(いいの きよし)

勤務先

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構(道総研)

産業技術研究本部 工業試験場 材料技術部

〒060-0819 札幌市北区北十九条西11丁目

TEL 011-747-2935 FAX 011-726-4057

E-mail iino-kiyoshi@hro.or.jp

■ 専門：金属部門(表面技術)

1. 自己紹介

私は1971年(昭和46年)に岩見沢市で生まれ、高校まで札幌で過ごした後、筑波大学基礎工学類に進学し、修士号を取得した後、関西にある文科省傘下の研究所に勤務し、大阪府立大学から博士(工学)を頂きました。

結婚して子供が生まれたのをきっかけに、子供の養育環境などを考え、Uターンを考えていたところ、平成16年に旧・北海道立工業試験場の研究員として採用してもらえました。しかし、これまでと分野がまったく異なる金属材料の腐食防食と表面処理を担当することになり、道内企業様への技術的な支援を行わせて頂きながら必死で勉強し、論文投稿や学会発表もさせて頂きました。その後、体調を崩してしまい、医師の指示で休職することになってしまいました。平成25年に復職しましたが、転職後の必死の勉強と実務経験を、何か形に残したいと考え、技術士に挑戦しようと考えました。

しかし、技術士試験について調べてみても、金属部門に関する情報はほとんどなく、公開されている過去問を解くほかに良い勉強法も思い浮かばず、自己流で休日に勉強し、運よく合格できました。これも、転職してきた門外漢の私に、手取り足取り指導して下さった諸先輩方の熱血指導のおかげと、感謝いたしております。

2. 技術士と博士号と

不肖な私を指導して下さいました先生方のおかげで、研究の世界の称号(学位)と、エンジニアの世界の称号(技術士)を持つことになりました。

私のような末端研究者がコメントするのは、不遜ではありますが…この二つの称号は全く別物だと感じています。スポーツに例えると博士号はフルマラソン、技術士はゴルフのプロテストではないかと思っています。その理由は、フルマラソンはとてもきつい

ですが、途中で棄権さえしなければいつかはゴールできます。一方、プロテストは、一定以上の実力があるかどうか問われるからです。(様々なご意見があるでしょうが…個人的見解です)

3. 技術者倫理について

最近、日本を代表する巨大研究機関で研究のねつ造が行われたことが世間を騒がせました。日本の研究者が置かれている環境では、「①研究予算を獲得する→②新規なデータを出す→③論文を書いて業績を積み上げる→④研究者としてより良いポジションに移る」というサイクルをずっと回さなければならず、このような偏った成果主義と雇用の不安定さ、採用選考の不透明さが今回の問題の根底にある気がします。研究業績は、論文の本数で評価されてしまいます。ですから研究の世界では論文の本数を積み上げる競争だけがあって、技術者倫理について学ぶ機会はほとんど持てないのが現状です。

一方、技術士は、技術者倫理について、1次試験及び2次口頭試験で厳しく問われますし、また取得後もCPDの中で技術者倫理についても学ぶように求められます。技術士という資格は、その人が高い専門性を有するだけでなく、高い技術者倫理観を持っている証明でもあるはずです。

4. 技術士資格の奨励による研究不正防止

税金を使っている研究のねつ造は許されることではありません。今回の騒動を受け各公的研究機関では研究不正防止の対応を迫られています。具体的な解決策として、「研究員に、技術士資格を取るよう奨励する」ことを提案したいと思います。研究者が学位だけでなく技術士資格を持つことにより、その人の技術者倫理観がより高まり、研究不正が防止でき、また所属する研究機関の対外的信用力の向上にもつながるだろうと思うからです。